

3 棚田保全活動の実践

ステップ1 地域の現状と課題を話し合おう

(1) まずはみんなが集まって話し合うこと

○地域をまとめるリーダーや組織・グループがあると思います

- ・自治会のリーダー、農業のリーダー、食（料理）のリーダー、女性グループのリーダーなどその分野で得意（自称でよい）とする人たちを中心にみんなで集まりましょう。



女性グループの話し合い

(2) 何を話すの？

○地域の現状や課題について話し合ってみましょう

- ・人がたくさんいた頃と現在を比較し、どんな状況になっていますか。
- ・見慣れた集落を歩いて点検をすることも効果があります。
「集落点検マップ」を作ってみましょう。
- ・アンケート調査も傾向がつかめます。
- ・取りまとめは、ワークショップによる手法が有効です。



ワークショップの様子

※ワークショップの例（手順）、集落点検マップ作成例を参考に行ってみましょう。
（5ページ～7ページ参照）

話し合いのポイント

- 力を抜いて全員が思った意見を出し合いましょう。
- 出された意見は、どれも貴重なものです。
意見を否定しないことが大切です。
- 地域のお宝も発見してみましょう。
- アドバイザーとして「農協営農担当」や「市町地域担当」の参加を求めることも有効です。

ワークショップの例

手順1

- ・ 集落の現状はどうなっているか、問題点は何か、良いところはどこか。
- ・ アンケート調査をしてみよう。
- ・ 棚田地域集落点検マップを作成しよう。
現地へ地図と点検マップ記録帳とカメラを持って集落点検を実施
点検したら気がついたことを地図に記入（付箋紙に記入、写真を貼る）
- ・ 点検結果を発表し、集落の状況をみんなで確認して共通認識を持とう。

手順2

- ・ 点検マップをもとに、問題点を抽出し、その解決策を含めて課題を整理しよう。
- ・ みんなで知恵を出し合って、将来の夢を話し合ってみよう。
今のままで本当にいいの？ 将来はどうなるの？
解決する方法は？ みんなが元気になる取り組みは？

手順3

- ・ 棚田の保全活動に向けた計画づくりを進めよう。
- ・ 集落点検した結果をみんなに知らせながら、集落の全員が参加して計画をつくろう。
- ・ 取り組む活動の内容を決めよう。
- ・ 今できること、数年後の目標、将来の構想をたてよう。



- ・ 活動計画の実現に向け、自分たちでやることと行政等をお願いすることの仕分けや役割分担を決めよう。
- ・ そして、実践活動をスタートさせよう。



ワークショップの様子（自由な意見を出し合いましょう）

棚田地域集落点検マップ記録帳の例

番号	棚田(ほ場)条件	環境条件	生活条件	地域資源	記録写真番号
地図へ整理番号を記入	記入例 農道が必要、水路の改修、ため池の改修、石垣の補修など	記入例 耕作放棄地、イノシシ被害、竹繁茂など	記入例 空き家の有無、生活道路の改修など	記入例 整備された棚田、有名な神社仏閣、ほたるがきれいなど	地図へ写真整理番号を記入
1		竹が繁茂している			101
2				展望がよく、観光スポットになる	102
3				棚田がきれいで、カメラマンが多く訪れている	103
4			道が狭く、展望台へ行くのに不便		104
5	棚田が荒れ、石垣が崩れている				105
6				ほたるが多くみられる	106
21		川の災害が起きている			121
22	農道と水路の改修が必要				122